

特集

「北斗星」のタイ復活プロジェクトリーダー

吉村元志氏が語る「鉄道の魅力」



（よしむら もとゆき）1956年、東京都生まれ。時刻表鉄、撮り鉄で、鉄道模型のH0ゲージを150両所有。現在は長崎市内でホテルの顧問。「長崎きしゃ倶楽部」代表世話人、「チーム51」リーダー。倶楽部の活動ではJR九州から社長名で感謝状を贈られた。

北海道で活躍した鉄道車両がタイに渡り、再び元気ををみせているという話題を前号で紹介したが、「北斗星」を牽引した機関車「DD51」をタイで復活させるプロジェクトチームのリーダーを務めているのが、「長崎きしゃ倶楽部」の吉村元志代表（66）だ。長崎在住の吉村氏は、かつて北海道に居住していたことがあり、その後も度々訪れるなど、北海道の鉄道事情にも明るい。思いつ話も交えながら、「鉄道の魅力」について語ってもらった。

（構成／フリーライター・内海達志）

鉄道に興味を持た

れたきっかけは。子どもの頃は東京と名古屋に住んでいたのですが、福岡まで里帰りです。ブルートレインに乗ったのが、鉄道に興味を持つようになった原体験です。小2から毎月、時刻表を買っていました。

DD51の思い出はありますか。

昭和51年から53年にかけて岩見沢に住んでいたことがあり、その当時、タイへ渡った2両のうちの1両が岩見沢に配置されていたので、おそらく何度も見ていたはずですよ。（DD51が牽く）札幌発の夜行急行トリオ、釧路行き「狩勝」、稚内行き「利尻」、網走行き「大雪」も撮っています。

「大雪」といえば、冬に乗車したとき、暖房が故障して車内に氷柱ができたことがあります。ちょうど雪まつりシーズンで、デッキまで乗客が鈴なりだったのですが、デッキに立っている人はヒゲが凍っていました。途中で機関車が付け替えられ暖房が復活したのですが、国鉄時代の懐か

しい思い出です。

DD51が牽く「北斗星」にも乗っていますし、やはり親近感がありますね。よく上野幌駅で撮影していたのですが、「北斗星」の迫力は、他の特急と比べてケタ違いでした。白線の内側で片膝をつけて構えていたのですが、通過する風圧で吹っ飛

DD51とは岩見沢からの縁

——同じくタイへ渡ったキハ183にも思い出はありますか。

北海道で乗車したことがあり、たくさん写真も撮りました。2月にバンコクへ行った際、たまたま空気があったので「キハ183ツアー」に参加したのですが、大盛況でしたよ。

ばされそうになったの

を思い出します。DD51は、ブルートレインを一番長く牽引した機関車でもあるのです。SLの終焉後から、最後の「北斗星」まで活躍していましたから。特に北海道は、重連で目一杯走っていたので、強く印象に残っています。

（9月号の）記事で書

かれていたように、ツアー料金はかなり高額とあって、最初は大丈夫かなと思っていたのですが、改めて人気を実感しました。

——DD51のプロジェクトで苦労されたことは。スタート時からの

話をさせていただくと、2018年に所用

があつてタイを訪問した際、FBでつながっていた現地在住の木村正人さんという通訳の方に誘われSLを見に行つたついでに、「そういえばDD51が日本から来たばかりだから、機関車が置かれていない（ノンプラドックに立ち寄ってみよう」ということになったのです。そこで久しぶりに対面した青い姿に感動しました。

親日的なスタッフが多く、鉄道ファンにも好意的に接してくれていたのですが、責任者が「JRがメンテナンスなどを教えてくれると思っていたが、誰も来ない。その点が不満だ」と言うのです。

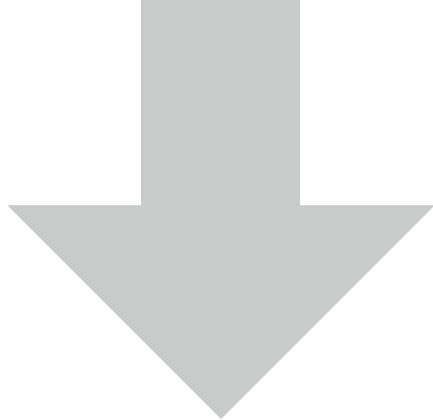
その言葉が頭に残っ

ていて、何か役に立たないかと思い、木村さんと相談し、ちょうど浸透し始めていたCF（クラウドファンディング）を始めることになったわけです。

——そのCFで資金が集まり、技術者を派遣したのですか。

はい。誰か適任者はいないかと、九州鉄道記念館の副館長で、ファンの間では「神様」と呼ばれている宇都宮照信さんと、「キハ2004を守る会」で精力的に活動をされていた吉村利啓さん、このお二方に相談したところ、同じ人物を紹介されまして、それが北九州市の鉄道技術者、辛嶋隆昭さんだったので。辛嶋さんがDD51

塗り替えられる前のプレート▶



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)